

(二) 政治状勢

1、日本ブルジョアジーの政治的様相はその政治支配の無確立による全般的な動搖と混亂の中にある。

既成政治勢力の分裂動搖、新官僚の擡頭、軍部革新派の進出、政黨政治の無力化と否認フアシズムの勢力の増大と同時にこれらを通じて強化される反動支配の無層階級への抑壓など、資本主義の上海建築たるブルジョア政治勢力に經濟的基礎の仮局的變動に伴ひ相剋と混亂を呈してゐる。

然かもかかる混亂期を一貫して取も特徴的な現象を形成せるものはフアシズムの勢力の増大であり、その政治的動向は現在の段階に於ける中心的な眼目である。

2、ロンドン軍艦條約を巡る政黨軍閥の紛争を経て海軍事件の突發するや、その後血盟團事件、五、一五事件に點火し、かか

る社會的興奮を経て日本フアシズム運動の氣運は濃厚化しその主流に介入するものは、常に軍部と目ざ準（ル）而して軍部の自衛しき政治的登壇は倍もブルジョア政治支配に正面對立するかの如き觀を與へてゐる

だが軍部は既成政治勢力から完全に獨立し決定的な對立をするものでなく、實にブルジョアジーの一分派である

曾つて日本資本主義は戰爭毎に躍進的な發展を遂げつつ軍部はその偉大な助成者であつた。併し獨占の境段階に入り込める日本資本主義の全体的な矛盾と危機は既に國防政策の見地からする軍部の政治的進出を蓋し不可避ならしむ。

別言すれば、ブルジョア政治支配の無確立のため全官僚機構殊に軍部の役割がブルジョアジーの妥協を切實に要請しその深化擴大されしことにある。即ち新官僚の擡頭と役割も此の